

祭りを基盤とした地域児童・生徒・高齢者と大学生・留学生との交流

皆野町三沢・金崎地区 早稲田大学

1 活動目的

今年度の活動目標は、祭りを基盤とした地域児童・生徒・高齢者と大学生・留学生との交流であり、主な内容としては、1. 中学生・大学生・留学生が参加するワークショップ開催、2. 伝統行事を活用した留学生と地域高齢者との異文化交流、3. 海外で皆野町を紹介するイベントの開催、4. 地域創成を目的とした地元小学校、中学校、高校との交流事業、5. 海外への活動状況の発信、とした。

2 活動地域の現状

皆野町の人口は 9,748 人（令和元年 8 月 1 日現在）であり、三沢地区の人口は 1,322 人（平成 27 年 1 月 1 日現在）、金崎地区の人口は 448 人（平成 27 年 1 月 1 日現在）となっている。皆野町は秩父音頭発祥の地であり、毎年 8 月 14 日に秩父音頭まつりが行われる。

我々は「WAMIPOP」と題したグループを組織し活動している。WAMIPOP という名称には、①WA：わせだ、地域との輪（わ）、②MI：みなのまち、みんな、みかじま（早稲田大学所在地）、③PO：人気のある（**Popular**）、④P：プロジェクト（**Project**）という意味がある。本活動では「地域とつながる」、「自然とつながる」、「世界とつながる」を活動理念としている。

3 活動内容

2019 年 7 月 12 日に、中学生・大学生・留学生が参加するワークショップとして皆野中学校での英語交流事業を行った。当日はカザフスタン共和国・ナザルバーエフ学校の高校生 10 人と引率教員 2 人、早稲田大学の学部生・大学院生・留学生 8 人が中学校を訪問し、同校の 3 年生と英語による交流プログラムを行った。交流場面では、開始当初は緊張している中学生も見られたが、高校生や大学生の適切な言葉かけと、ファシリテーターを担当された中学校教員のフォローもあり、どのテーブルも盛り上がった。

また日本文化体験として、皆野中学校生徒による獅子舞と秩父音頭が披露された。これにより中学生が日本文化、地域伝統文化を理解、習得するとともに、グローバルな視点を獲得し将来活躍していくきっかけとなることが期待された。

7 月 13～15 日には皆野町に所在する瑞穂神社の夏まつり開催支援を行った。この過程で地域住民の方々から地域の課題の聞き取りを行った。今年は少子化により夏祭りで例年行われている子供神輿の練り歩きが中止され、それに対する地域の方の思いを聞き取ることができた。

第 51 回秩父音頭祭り（8 月 14 日）に「早稲田大学ふるさと支援隊」として昨年に引き続き参加した。参加にあたり地域の中学生、高校生、高齢者から秩父音頭を習い、流し踊りに参加した。当日はふるさと支援隊 OB・OG も駆けつけ、大いに盛り上がった。OB・OG からは、支援隊の活動を通して、活動地域を第二の故郷のように思っ駆付けしたこ

と、地域住民からは OB・OG に対して、自身の息子や孫のような思いがあるなどの声が聞かれるなど、本事業を継続的に行ってきた効果が見て取れた。なお、秩父音頭祭りでは参加団体に対して表彰が行われ、当支援隊は皆野町観光協会会長賞を受賞した。

また、9月12日には、秩父地方の伝統料理と伝統芸能の紹介を通して、海外において日本の中山間地域の魅力を発信することを目的に、カザフスタン共和国・カザフ国立大学で、秩父音頭の披露を行うとともに、株式会社亀沢屋様から協賛いただいた「くずバー」の提供、有限会社新井武平商店様より協賛いただいた味噌と、WAMIPOPの活動で収穫した小麦を用いて、活動地域の伝統料理である「たらし焼き」を作り、同大学学生にふるまった。また、皆野町の紹介ポスターを掲示することと合わせて、ふるさと支援隊に参加した留学生 OG2 名による皆野町の魅力紹介も行った。カザフスタンでの活動紹介は毎年行っており、今回参加した OG2 名を含めた同大学の学生が、皆野町に興味を持ち、日本に留学した際に、ふるさと支援隊への活動参加を行うという形で、WAMIPOPの理念の継承と留学生の継続的な参加につながっている。

また、今年初の試みとして、早稲田大学所沢キャンパス祭（10月27日）において皆野町みらい創造課とコラボレーションした企画を行った。企画では皆野中学校生徒、埼玉県立皆野高校の生徒、引率教員等約40人がキャンパス祭に参加し、地域の特産品である鹿肉カレーの販売や秩父銘仙の紹介、皆野町立の小学校児童の作品展等を行った他、早稲田大学学生が中学生にキャンパスツアーを行った。

2020年2月3日には、瑞穂神社の節分祭の開催支援を行った。ここでは7月の夏祭りにおいて子供神輿の練り歩きが中止された事を受けて、節分祭への地域の小学校児童の参加が行われた。この経緯に関する聞き取りを通じて、祭りを通じた世代間の交流を絶やすまいとする地域の方々の取り組みを学んだ。また、留学生の母国において節分に相当する文化を紹介し、文化交流の機会を創出した。

4 成果

本年度の成果として、特に海外高校生と皆野町立皆野中学校生徒との英語交流事業を開催したこと、早稲田大学所沢キャンパス祭で、皆野町立三沢小学校、国神小学校、皆野小学校、皆野中学校、皆野高校とのコラボレーション企画を行った。これまで活動地域を訪問するだけだったのに対し、活動地域の人たちが、早稲田大学のキャンパスを訪問し活動するという相互交流企画ができたことが今年度の大きな成果であると考えられる。

5 課題

学生の履修授業との関連により、平日昼間の活動に制限があることに加えて、自立的な運営資金の調達が課題である。

6 次年度以降の計画

皆野町みらい創造課と連携し、ふるさと支援隊の活動を基盤として、インターンシップ事業が開始された。次年度は、さらに地域の課題に応える形で、学校や地元企業と連携したプロジェクトを推進する。

また、今年度は、皆野中学校で、海外高校生、大学生、大学院生、留学生と英語による交流事業を行った。次年度は、地元の小学生と一緒に、海外大学・学校に訪問するプロジェクトを計画している。



皆野中学校における中学生・大学生・留学生ワークショップ（2019年7月12日）



皆野町立三沢中学校生徒とカザフスタン高校生との英語交流（2019年7月12日）



秩父音頭祭りにふるさと支援隊として参加（2019年8月14日）



早稲田大学所沢キャンパス祭における活動地域の特産品販売（2019年10月27日）



皆野町立皆野中学校生徒への早稲田大学キャンパス紹介（2019年10月27日）



皆野町立三沢小学校収穫祭におけるカザフスタン共和国文化紹介（2019年11月2日）